

くものいと第15号目次

八木沼 健夫	: クモ雑録 (3)	1
金野 晋	: イソコモリグモについての覚え書き	3
畑守 有紀	: キムラグモについてのメモ	4
金野 晋	: 枚方市のキシノウエトタテグモ	6
長谷川 夕希子・吉田 真	: ズグロオニグモの飼育観察—往復書簡より—	8
長谷川 夕希子	: 妙見山観察会に参加して	17
金野 晋	: ワスレナグモの記録	20
94年度の活動予定		16
採集会の記録		18
関西クモ研究会からのお願い		21

くものいと

第15号

94-8-10

関西クモ研究会

大阪府茨木市

クモ雑録 (3)

八木沼健夫

10. 北海道のクモ数種

一昨年以来、カナダの昆虫学者Dr. L. LeSage (ハムシ専門)の依頼で、彼の同僚Dr. J. Sharkeyが日本滞在中にマレーズトラップにより採集したクモを同定中である。体調の良い時に少しずつやっているの、なかなかはかどらない。Dr. LeSageの最初の手紙には「日本産のseveral spidersの同定をお願いしたい」とあったので、かんたんにOKした。ところが折り返し送られて来たのは、何十本もの管瓶にぎっしりつまった大荷物であった。採集したまま、Station別・採集日別にはしてあったが、同じ日同じ地点のものはひとつの瓶にはいつているので、科も属も種も、♂も♀も、老いも若きも、メチャメチャにはいつている。これを分類仕分けするには何日もかかった。今までずいぶん多くの人々の標本を同定して来たが、こんなのは初めてであった。しかしOKしたのだから、仕方なく引き受けて今日に及んでいるのである。これらのうち一部の同定は林俊夫氏(フクロ)、加村隆英氏(ワシ)、松本誠治氏(ハエトリ)、田中穂積氏(コモリ)らのお世話になった。厚くお礼申し上げる。全体の調査が完了すれば、採集者が依頼者が発表されると思うが、今回はそれのうち参考のため重要なものをいくつか紹介しておく。

- クナシリナミハグモ *Cybaeus kunashirensis* Marusik et Logunov, 1991 [北海道定山溪, VIII-IX, 1989 (八木沼同定)]

本種は最初国後島からロシアのY. M. Marusik とD. V. Logunovにより記載(Zool. Zhur., 70 (9): 87-94, 1991)されたが、その後はるかにはなれた利尻島(保田信紀氏・西川喜朗氏)、礼文島(齊藤明子氏・上野俊一氏・西川喜朗氏)、対岸のサロベツ(保田信紀氏)から採集されたことが小野展嗣氏、西川喜朗氏共著の形で紹介された(Mem. Natr. Sci. Mus., (25): 135-142, 1992)。産地が国後島と利尻島礼文島および対岸のサロベツとはなれていたが今回のDr. Sharkeyの標本により既産地から離れた北海道本島にも生息することがわかった。おそらく北海道に広く分布するものと思われる。

- マユミフクログモ *Clubiona mayumiae* Ono, 1993 [北海道定山溪, 350m alt. VI. X 1989 (林俊夫氏同定)]



本種は林俊夫氏がかつて Clubiona propinqua L. Koch, 1879 として発表したクモである (Bull. biogeogr. Soc. Japan, 42:33-41, 1987) . 林氏はその後, Dr. LeSage の標本を検し, 両者は同種であると認めるとともに新種とすべき見解に達し, Clubiona mayumiae として記載を予定し, 私にこの件について相談された. 手紙により彼と discussion をしているうちに, 偶然にも同じ種が, 同名の C. mayumiae として小野展嗣氏から発表があった (Mem. Natn. Sci. Mus., (26):90-94) .

Clubiona propinqua は原記載以来, 各地のクモがこの種に同定され, ロシアや中国の学者により発表されているが, 同定が正しいかどうか疑問のものもある. 本種に近似の C. pseudogermanica Schenkel, 1936 ; C. hummeli Schenkel, 1936 ; C. salictum Namkung et Kim, 1987 などともに今なお問題があり, 日本・韓国・中国・ロシアの学者で見解を異にしている部分があっただけに落ち着いていない.

● その他のフクログモ

Clubiona のおもなものを紹介したついでに, 同じ定山溪で得られた Clubiona いくつかを記録しておく (林氏同定) .

Clubiona ezoensis Hayashi, 1987 エゾフクログモ, C. pseudogermanica Schenkel, 1986 カギフクログモ, C. akagiensis Hayashi, アカギフクログモ, C. kurilensis B. et S., 1906 ヒメフクログモ, C. rostrata Paik, 1985 マイコフクログモ.

● フクログモ以外のおもなもの

Callobius hokkaido Leech, 1971 エゾガケジグモ, Xysticus kurilensis Strand, 1907 チシマカニグモ, Pardosa hedini Schenkel, 1937 カラコモリグモ, Sitticus avocator (O.P.-Cambr., 1888) ヒトリハエトリ.

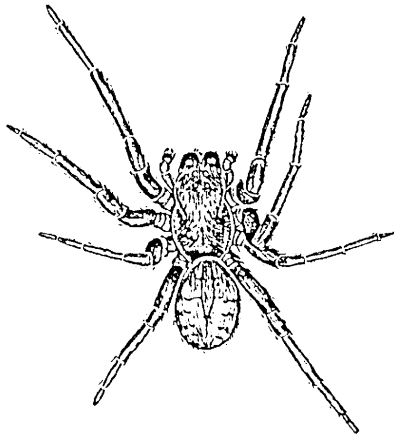
11. オーストラリア区別のガケジグモ広島で.

オーストラリア区に分布するクログケジグモ Ixeuticus robustus (L. Koch, 1872) が大阪市東南部および近部から発見され, その後和歌山県すさみ町でも発見されたことはよく知られているが, 最近では兵庫県南部から北部までも見つかっている. かつてこれを新種とすべきだといった外国学者もあったが, 今ではオーストラリア区との共通種として落ち着いている.

ところが最近, 同じくオーストラリア区別のガケジグモが広島市の港などにすでに定着していることが同市在住の井原庸氏によって明らかにされた. 種は同属で Ixeuticus martius (Simon, 1899) であるが, まだ和名はない. このクモに関しては分布生態などを研究されている井原氏から詳しい発表があると思うが, ここには一般の人々の今後の注意を喚起する意味で紹介しておく. 図は Forster (1970) の “ニュージーランドのクモ” から拝借した. 属名についてはクログケジグモとともに Badumna との説もあり, これに関して前に述べたこ



とがあるがいずれ改めて詳細発表の予定である。この Ixeuticus martius はかつて U.S.A で発見され、新属新種として扱われたことがあり、日本のクロガケジグモで私がやいやい言っていた頃、Forster 博士から日本のものも、アメリカで発表された I. martius ではなかろうかと言われたことがあったが、彼我的標本を交換して、日本のものは I. robustus に落ち着いた。この2種ともオーストラリア区のどこからか輸出した木材などについて広がったものと思われるが、日本でもしだいに分布を広げるであろう。



Ixeuticus martius (Simon, 1899) ♀

Forster, R. R., 1970.

The Spiders of New Zealand

(Part. III). p. 60.

イソコモリグモについての覚え書き

金野 晋

昨年のイソコモリグモの調査中に、石川県の大島海岸と片野海岸で1993. Sep. 26. と Sep. 27. に巣内から、それぞれ1♂と1♀の死体を発見した、いずれも脱皮殻が巣内に残っており脱皮直後に何者かに襲われたものと思われる。片野海岸の♀の巣の入口に近いところにオオハサミムシがいた。オオハサミムシは肉食性なのでイソコモリグモを襲った可能性はかなり高いと思われる。前回の飼育時にもオオハサミムシはイソコモリグモの餌にならなかったが、脱皮後からのやわらかいときにはイソコモリグモのほうが餌になるのかもしれない。

同時に片野海岸では最終脱皮直後と思われる1♀1♂を採集した。両個体とも巣の入り口は閉ざしており、脱皮殻とともに巣内にいたものを採集した。よく入り口の開いた巣で、脱皮殻しか残っていない巣を見るが、脱皮後どのぐらいで巣を放棄して作り直すのだろうか。脱皮殻の風化速度などから判別できないか検討してみるつもりである。

キムラグモについてのメモ

畑守 有紀

キムラグモ Heptathela kimurai KISHIDA は、腹部に環節を持つ原始的なクモである。

筆者は1993年8月9日～8月12日に九州地方でクモタケ調査を行ったが、この際に多くのキムラグモを観察した。そして採集・飼育した個体のうち3個体が最終脱皮により♂成体となったので、そのうち2個体を♀成体と思われる個体と同居させたところ、2ペアとも卵嚢を作った。

キムラグモの産卵については吉倉（1953）他によって詳細な報告がされている。しかし筆者にとってキムラグモの卵嚢は初めて見るものだったので、飼育条件下の観察として記録しておく。

<観察・採集地、および飼育方法>

1993年8月9日～8月12日にかけて図1に示した九州地方でキムラグモを観察・採集した。採集したクモの体長、背甲幅、Trap-door の長径を記録した。

直径6 cm、深さ11cmのマヨネーズびんに6 cmほど土を入れて飼育容器とし、5個体（A～E）を飼育した。この土は市販の赤玉と腐葉土を1：1に混ぜ合わせたものである。餌にはおもにサシムシやワラジムシを一週間に1、2匹の割合で与えた。

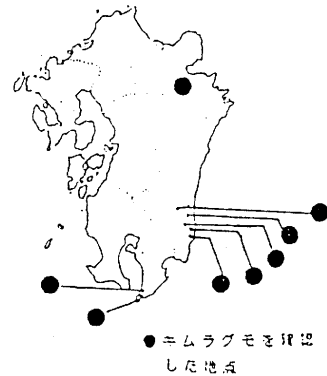


図1 九州地方での採集地

<産卵に関するデータ>

A～Eのすべての個体が飼育中の9月下旬～11月上旬にかけて脱皮した。これは八木沼（1954）や新海・高野（1984）の記述とほぼ一致する。この脱皮によってB、D、Eが♂だとわかった。♂は最終脱皮後、巣穴の外に出て元の巣穴に戻らなかった。また新たに巣を作ることもしなかった。A、Cの♀については、93年秋の脱皮で成体になったかどうかわからなかったが、のちに産卵したことによって成体であったことがわかった。

各個体のデータと交接時期を表1に示す。このうち、A～B、C～Dをペアとした。

表1 卵嚢を作った♀、および最終脱皮によって♂になった個体

No.	体長	背甲幅	Trap-door	最終脱皮	採集地	交接時期	卵嚢の確認
A♀	9.0	4.0	14.0	93.Oct.26 ~Nov.5	鹿児島県 近津宮神社	93.Nov.6 ~ Dec.27	.94.Jun.4
B♂	11.6	4.6	16.0	93.Oct.28	宮崎県 鶴戸神宮		
C♀	10.0	4.0	16.8	93.Oct.26	宮崎県 宮王丸	93.Nov.6 ~ Dec.27	94.Jun.4
D♂	8.2 (9.2)	3.3 (4.0)	14.5	93.Sep.30	宮崎県 宮王丸		
E♂	9.7 (8.6)	3.8 (4.2)	—	93.Oct.7	鹿児島県 近津宮神社		

※ () 内は、標本化後のサイズ (mm)。

1993年11月6日に♂を♀の飼育容器に移しそのまま12月27日まで同居させた。♂は♀の巣穴のそばを触肢を動かしながら歩き回ったが、筆者の観察中に交接までは至らなかった。今回観察したB♂、D♂の触肢の動きは、1991年11月22日に観察したキシノウエトタテグモの♂のドラミングに比べて非常にゆっくりであったように思った。

産卵の様子はどちらのペアでも観察していない。現在まで報告されている産卵時期は6月~7月(八木沼,1954,吉倉,1953等)であり大きくズレてはいないが室内飼育の分、やや早いかもしれない。卵嚢の形なども、記載とまったく同じであった。

A-BのペアのB♂は12月24日まで生存を確認しているが、その後♀に捕食されたのか12月27日以降は確認できなかった。A♀は現在も飼育中である。C-DペアのD♂は12月27日に死亡したので液浸標本にした。E♂は11月26日に死亡したので液浸標本にした。E♂が死亡した時線虫が体の表面に見られた。

A-Bのペアの卵嚢を6月6日に開いてみたところ、卵の数は82個であった。この卵嚢は液浸標本にしたが、このうち7個がアルコール中で孵化した。C-Dのペアの卵嚢についてはC♀と共に飼育中である。

最後に、九州調査旅行に関しては石野田辰夫氏、馬田英隆氏をはじめとして大変多くの方々にお世話になりました。ここに深くお礼申し上げます。

枚方市のキシノウエトタテグモ

金野 晋

古いATYPUSをみていたらその1号に見島弘の“キシノウエトタテグモ 大阪に産す”という一文があった。内容は「京都にいるのに大阪にいないはずはないと思って探していたら1952年の2月に枚方附近で多数生息しているのを確認した」というものである。枚方というのは私の住んでいる交野市の隣の市である。

あちこちでトタテ類を採集しているが、身近なところというのは案外忘れていたもので、何種かいるに違いないのだがまだ採集はしていなかった。まさしく灯台下暗しである。40年も昔に採集されているのだからいないはずはない。この報告では枚方のどこかということは明らかにされていないが、すぐにある場所を思い出した。あそこなら居るに違いない。そう思って所用で枚方に出たときに探しにいった。

1994年3月14日、場所は京阪枚方市駅から歩いて5分強の丘陵地にある意賀美神社である。この丘陵地は淀川とその支流の天野川に挟まれ南北にのびた所で私の家は天野川の東、天野川をはさんで丘陵地と反対側にある。私の家から歩いていける神社や寺にもいると思うが、まだ調べには行っていない。

意賀美神社は高校生の時に通学の電車の中からみていたが採集には初めてたずねる場所である。最近京阪電車が高架になったため工事の関係で丘陵地の裾の方がかなり削られており心配であった。神社の周辺もいろいろな工事を行っているようで階段なども思っていたより新しく、整備されたばかりである。これではキシノウエの生息は無理かとおもいながら、階段の両側の崖をみていく。すぐにトタテグモの巣の蓋が目についた。しかし、階段から約1m離れておりその下は花壇にするつもりのように草を植えたばかりのようだ。近寄ってみたいが幼稚園の子供たちが花見（梅）に来ているので自重して通り過ぎるのを待つ。やっと通り過ぎてくれたので花壇を横切り崖に近寄ってみたらキノボリトタテグモの



巣であった。崖の上に生えてるイチイガシ？の木にも10個ばかり古巣を見つけた。残念なことに現在生きている巣は見つからない。土の崖にも10個ぐらい古巣があるがすべてキノボリである。やはりキシノウエの方が開発には弱いのだろうか。

神社の境内は望み薄なので周囲の土手を見て歩く。よさそうな土壁があるのでていねいに探したが発見したのはまたしてもキノボリの巣である。今度の巣は中から必死で引っ張っているので生きているのだ。残念ながらキノボリの生きているのはこの1個体だけだったので採集はしなかった。

あきらめきれずにしつこく探しているとキノボリの巣があった崖のちょっと下のところにキシノウエの巣が見つかった。思わず声を出しそうになったが、住宅地のそばなので不審者に思われるのも困るしぐつところえる。キシノウエの巣は崖の下の方に集中してあった大小あわせて20個確認した。中のクモが生きているのかどうかはわからない。ただ、1つだけ蓋を引っ張った個体がいるのですべてがからではないだろう。巣の感じから多分半数以上は生きているものと思う。生息数が多くないから今回は採集はしないことにする。しかし、ここのキシノウエは風前の灯かもしれない。どうか外見の美しさを保つためだけに各種の工事が行われなことを祈るだけである。クモタケのシーズンにでも再調査をして証拠の標本を残しておくつもりだ。

今回確認した場所は42年前の枚方の記録地なのかどうかはわからない。兎島は枚方が淀川の川筋で京都とつながっているためにキシノウエが分布していても不思議はないと考えているようだ。おそらく淀川からそう遠くないところで採集しているのだろう。枚方市の淀川ぞいには多数の神社仏閣がありこれらをていねいに調査すればたいの場所にキシノウエは生息すると思われる。いずれ改めて調査を試みるつもりである。



ズグロオニグモ *Yaginumia sia* (Strand) の飼育観察 — 往復書簡より —

長谷川夕希子さんはズグロオニグモ *Yaginumia sia* (Strand) に興味を持ち、1993年の夏頃から飼育を続けている方です。

飼育観察の中でクモが不思議な産卵（単為生殖か？）をしたため、八木沼先生に質問の手紙を書きました。そして八木沼先生からの紹介で、関西クモ研究会の吉田真先生と連絡をとり、文通しています。

長谷川さんの手紙は、とてもクモに愛情を持っていて内容も興味深いものなので、吉田先生との往復書簡を本人の了承の上で紹介させていただきます。

1993年11月2日 長谷川さんから八木沼先生への手紙

拝啓

初めてお手紙差し上げます。

私は短大二回生の長谷川 夕希子と申します。

私はこの夏八月末ごろからクモを飼っております。先日、クモのことを調べようと学校の図書館で八木沼先生のクモ図鑑を拝見しました。

私のクモは私が発見した時大変弱っており、糸も出さずにじっとしていました。私は何をあげていいのかわからず、スイカをあげてみました。クモはスイカを食べました。私が見る限りでは、とてもスイカが好きです。スイカを食べた後は、お腹がピンクに透けています。スイカが手に入らなくなってからはメロンをあげておりますが、よく食べます。

私がクモに魅了されたきっかけは、脱皮を見てからです。私はクモに仲間を入れてあげようと思い、小グモを入れましたが、私のクモは小グモを食べてしまいました。それから、お腹がかなり大きくなり、クモの足から白いモノが出てきて、私は溶けているのかと思いました。私は、てっきり小グモは毒グモだったのだと思いました。白いモノがクモの形をして動き出すと、やっとそれがクモの脱皮だとわかりました。その時、私はとても感動しました。

それから、毎日小グモを一、二匹あげたので大変

お腹が大きくなり、ピーナッツを抱えているように見えました。

ところが、二、三日ほど前に朝起きてみると、お腹がすっかりしぼんでいました。そして、何か黄色いかたまりのまわりに、糸をたくさんつけていました。黄色いかたまりのまわりは、まっ白になってしまいました。この様子はまさに産卵です。

(中略)

そして、いつもは下の方に住んでいるのですが、ずっと、黄色いかたまりの側にいて、私が餌をあげようと近づくと大変おこります。

しかし、私は交渉しているところも見えていませんし、お腹が大きかったのは餌のやりすぎただけなので、どうしても信じられません。毎日小グモを一、二匹はあげていたのでお腹が大きただけで、さらに卵を持っていたとは信じられないのです。小グモも私が見ている時に食べていたので、交渉はしていないと思うのです。

しかし、もし卵であれば、私は外に捨てようと思いません。もともと、秋に死ぬと知った時、死んだらもう飼うのはやめようと思っていましたし、繁殖させる気もありませんでした。だから、卵であれば、卵をつぶさずに、外に捨てる方法（できれば親がそのまま保護できるように）を教えてくださいたいのです。

(中略)

それから、どれくらいの期間で卵は孵化するのでしょうか。私のクモは、おそらくズグロオニグモの雌だと思います。

ご多忙中、誠に恐れいたしますが、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

敬具

一九九三年十一月二日

長谷川 夕希子

八木沼 健夫 様



1993年11月22日 吉田先生から長谷川さんへの手紙

長谷川夕希子様

拝啓

私は、おもに造網性のクモの生態や行動について研究している者です。あなたの質問に答えるようにと、八木沼先生から私のところに、あなたの手紙が回ってきました。十分な答えができるかどうか分かりませんが、以下に思いつくままにあなたの質問に関わるポイントを述べてみます。

1) クモの雌が無精卵を生むことはかなりあります。私が飼育したオオシロカネグモでは、(雄と交尾した)雌は生涯に数回、卵塊を生み、その多くからは子グモが孵化しましたが、いくつかの卵塊からは子グモは生まれませんでした。

たぶんこれは、卵より(雄からもらった)精子の数が少なかったためではないかと思われまます。クモや昆虫の雌は貯精のうという精子を貯蔵する器官を持っており、雌は産卵の際に卵に精子を作用させて受精卵とするのです。

2) あなたが飼育した雌は、一度脱皮してから産卵したので、飼育時には亜成体であったと思われまます。亜成体で雄と交尾していたとは考えられません。亜成体では雌の生殖器が完成していないからです。

このような雌が産卵した例は私は直接は見ていませんが、栄養状態が非常に良ければ、無精卵を生むこともあり得るかも知れません。

3) もうひとつは単為生殖(処女生殖)の可能性です。母親だけで子どもが生まれるこのような生殖様式は、昆虫ではアリマキなど多数の例があります。クモでは、現在手元に文献がないのではっきりとは言えないのですが、鳥取大学の鶴崎さんによれば、世界で7例ほどあったようです。

あなたのクモの卵から子グモが出て来るとすれば、ズグロオニグモも単為発生をするという、日本では初めての研究になると思ひまます。卵を飼育することを強く勧めまます。



1993年11月25日 長谷川さんから吉田先生への手紙

前略 このたびは大変ご丁寧なお返事を頂き、誠にありがとうございました。早速拝読させて頂きました。クモの専門知識のない私にも、とてもわかりやすく、読み進むうちに一層クモへの関心が深まりました。私には無精卵を生んだのか、それとも単為生殖なのかはわかりませんが、私の疑問についていくつかの可能性を知ることができ、大変感謝しております。

私が手紙をお送りしました十日後、クモはまた産卵し、さらにその十日後また産卵しました。二回目の卵だけクモを入れ替える時につぶしてしまい、今は二つ卵塊があります。最初の産卵以来、とりわけ雄とは交渉させていません。私も、卵を見届けたいと思っていますので、是非飼育したいのですが、そのまま放置しておくだけでよろしいのでしょうか。もし、特に卵の保存法がございましたら、お教え下さい。それから、卵はいつ頃孵化するのでしょうか。

八木沼先生の図鑑で、クモはたいてい寿命は一年だと知り、私のクモももうすぐ死ぬかもしれないと思いましたが、何十年も飼育したつもりで飼っています。最近、クモが減ってきたので、餌に困ってしまい、メロンをあげたりしていますが、スイカほど好きではないようです。

(中略)

吉田先生の益々のご活躍をお祈りいたします。

草々

一九九三年十一月二十五日

長谷川 夕希子

吉田 真 様

1993年12月1日 吉田先生から長谷川さんへの手紙

前略

お手紙拝見しました。卵の保存法は、私にもよく分かりませんが、たぶん、雨の当たらない野外におくのがよいと思います。室内では過度に乾燥してしまう危険があるからです。

クモの卵の発生を研究している東邦大学の近藤さんは、卵塊をとがっていない鉛筆の先でバラバラにして発生させていたようです。酸欠を防ぐためとか。詳しく知りたいなら、彼に尋ねてください。やさしいおじさんですから、きっと教えてくれると思います。

卵の孵化の時期ですが、クモによっていろいろで、ズグロオニグモの孵化時期は私は知りません。秋に孵化して卵のうちで冬越しするのか、春になってから孵化するかのどちらかだと思います。ひょっとすると、卵のうちから出て落ち葉の下などで冬越しするかも知れませんが。

スイカやメロンは糖分と水分の補給という点ではいいのですが、長期間飼育しようと思えばタンパク質も必要です。釣り道具屋で赤虫を買ってきて餌にするという手もあります。冷蔵庫に入れておけば、かなり長期間持ちます。もっとも、そのクモはそろそろ寿命が尽きて死ぬのではないかと思います。

えらく熱心な方のようなので、私の本を謹呈します。第2章は難しいようなら飛ばして読んで下さい。関西クモ研究会の採集会などがありましたら連絡しますから、良かったら来て下さい。

草々

1993年12月1日

吉田 真

拝啓

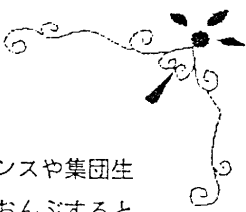
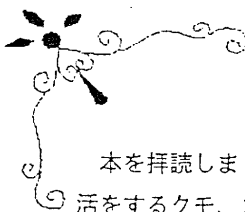
今年も残すところあと僅かとなりました。最近、めっきり寒くなってまいりましたが、如何お過ごしでしょうか。

先日はわざわざ本を送って頂きまして、誠にありがとうございました。とてもおもしろく、楽しく拝読しました。私の友達も、私がクモを飼っていることを言うと、必ず「毒ないの?」と聞きました。説明のために何度か、頂いた本の中から言葉を引用させて頂きました。

(中略)

吉田先生が教えて下さいました赤虫を、早速買に行きました。熱帯魚屋さんに「何にあげるの?」と聞かれて「クモです。」と言うと、「おもしろいもん飼ってんね。」と言われました。掃ってきてあげてみると、すぐに食べました。スイカをあげた時でもはじめは訝しがったのですが、

全くその様子もなく、本当に「おいしい、おいしい」と言っているようでした。一時、全然動かず餌も食べなくなりました。唯一の取り柄である食い意地もなくなったので、死ぬのだと思いました。しかし、こたつの側に置いたり、カイロを下にひいたりして温めてあげると、活動しはじめて産卵しました。それから、赤虫をあげたのでますます元気になりました。いくらあげても食べるので、ついついあげすぎてしまい、丸々太ってしまいました。お腹を引きずって歩いたり、糸から落ちたり、前は通れた枝と枝の間にお腹がつまってジタバタしたりと、可愛い仕草を見せてくれます。これも赤虫のおかげです。良い餌を教えて下さって、本当に感謝しております。



本を拝読しまして、クモの求愛ダンスや集団生活を
するクモ、コモリグモが子供をおんぶするところ
などを見てみたいと思いました。私のクモは、髪
の毛を餌と間違えて捕まえようとしたり、おしり
（腹部）を搔こうとして届かず、寝ころがって搔
こうとしたりと、あまり頭がいいとは思えませ
んが、中には賢いクモもいるのだと感心しまし
た。クモが私の存在自体認識しているのかどうか
わかりませんが、私は新鮮でかわいい仕草を見
せてくれるクモを、とても大切に思います。

吉田先生には、ご多忙のところ、専門家の方
にとっては幼稚でばかばかしい質問に、答えて
下さったり、本をいただいたり、数々のご親切
に心から感謝しております。


一段と寒くなってまいりましたが、風邪など
ひかぬよう、よき迎春をお祈り申し上げます。

敬具

1993年12月23日

同志社女子大学短期大学部

長谷川 夕希子



吉田 真様

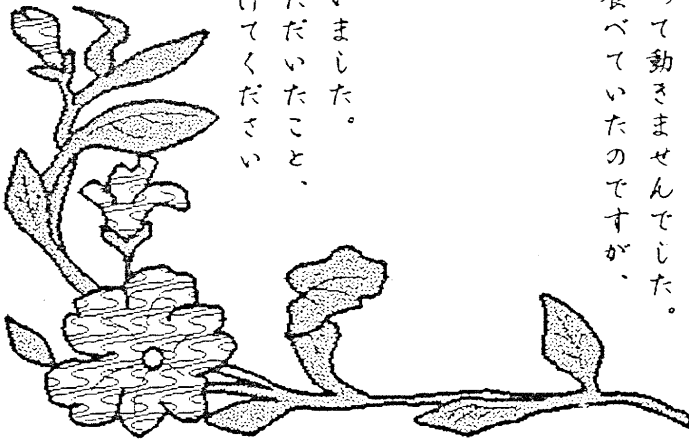
前略 先日お手紙を書いた4日後、クモは寿命が尽きました。入れ物の中が汚くなったので、新しい入れ物に入れ換えると、いつものように最初は歩きまわっていたのですが、少ししてから動かなくなりました。もしかしてまた脱皮をしているのでは、という期待も虚しく、グラーンとぶら下がって動きませんでした。久しぶりに好物のスイカをあげると喜んで食べていたのですが、とても残念です。

(中略)

今度はもっと長寿のクモを飼いたいと思いました。吉田先生には、大変ご丁寧なお返事をいただいたこと、心から感謝しております。いつもお心にかけてくださいます。まして本当に過分に存じます。

御健康と御活躍をお祈り申し上げます。

敬具



採集会に参加した長谷川さんの感想文が17p にあります。

関西クモ研究会の今後の活動予定（1994年度）

◎採集会◎

日時：9月15日（木）

場所：未定

祝日（敬老の日）です。場所は京都方面を予定しています。

◎関西クモ研究会・例会（研究発表会）◎

日時：12月11日（日）

場所：四天王寺高等学校（大阪市）

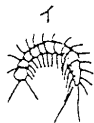
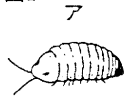
場所は谷町線『四天王寺前』下車してすぐ。午後から開会を予定しています。
閉会後は夕食会を予定しています。

※採集会・例会 共に未定の部分・詳細については追って連絡致します。※

=What is this ?!=

下図は、某中3実力練成テキストに掲載されたものです。
しかし・・・ムム!? 何だろう、この奇怪な生物群は・・・!!!?
と、いうわけで福島県立高等学校入試問題（改）でした。

図1



答は奥付の頁にあります。

妙見山観察会に参加して

長谷川夕希子

「とても変わっていて、こわい人達」私が採集会に参加させていただく前に、くも研究会の方々に抱いていた先入観です。今から考えると、吉田先生から大変親切な手紙をいつもいただいていたが、なんて失礼な奴だったんだろうと思います。実際に参加させていただいて、本当に皆さん親切で優しい方ばかりで、後半部分はすぐに間違いだとわかりました。

私のような素人には面白いこと、驚くことばかりでした。吸虫管（こんな漢字ですよね？）は、最初は「こんなんでもうやって？」と疑問でしたが、何度も仕留めていく様子を見て、よく出来ているなぁと感心しました。それから、くもの巣の真ん中にあるクモを採るとき、手をふりおろしてバサッと糸ごとつぶして採る様子にびっくりしました。たぶん、あれが一番確実にとれる方法なのだと思いますが、「ああ、せっかくきれいに張った糸がもったいない。」と素人の私からは信じられない大胆な方法だと思いました。そして、素人の目から見て驚いたもう一つのは、とても小さいクモでもすぐに見つけられることです。（ちなみに私は視力が2.0 なんですけど。）それと、ちょっと面白かったのが、皆さん成体のことを「アダルト」と呼ばれていたことです。これは（クモに興味のない）友達に言ってもうけていました。

採集会に参加して、私が今まで知らなかったクモをたくさん見ることができました。ゴミグモを見て「どこまでがクモの本体ですか？」というすっとんきょうなことを言ったり、アリグモやオナガグモを「これがクモ？」と信じられなかったり、私には新しい事ばかりでした。特に私はズグロオニグモがとても好きですが、ヤマトガケジグモやアオオニグモ、タニマノドヨウグモを見せていただいた時は、あまりの愛くるしさに「欲しいです。」とお願いしてしまいました。今でも家で飼っていますが、はじめて赤虫やすいかを食べた時は感動しました。

クモ以外にも、カエルに催眠術をかける方法や、イモリをもらったりととても楽しかったです。

いろんなクモをたくさん見られて、皆さん親切に解説をして下さり、本当に楽しい時間を過ごすことができました。採集会に参加して益々クモが好きになりました。また機会があれば、ぜひ参加させて下さい。ありがとうございました。



★★★ 採集会の記録 ★★★

☆☆ 妙見山方面／1994年6月5日（日）☆☆

参加者：金野晋，加村隆英，清水裕行，田中穂積，西川喜朗，
長谷川夕希子，畑守有紀，細田みどり，牧野達也，吉田真。

歩いたコース：

- ◎能勢電鉄妙見口駅からケーブルカー黒川駅まで
大阪府豊能郡豊能町吉川 190～250m alt.
- ◎ケーブルカー黒川駅横からロープウェイの上の乗り場（妙見）まで
兵庫県川西市新滝（妙見山の南西） 250～600m alt.

この日の採集会で確認した種は下記のとおりである。大阪府と兵庫県にまたがっているので，区域を分けて示す。

【大阪府側だけで確認できた種】

ハグモ科：カレハグモ
サラグモ科：ツリサラグモ
コガネグモ科：ズグロオニグモ
コモリグモ科：イナダハリゲコモリグモ
エビグモ科：ヤドカリグモ
ハエトリグモ科：シラヒゲハエトリ

【両方の区域で確認できた種】

トタテグモ科：キノボリトタテグモ
ガケジグモ科：ヤマトガケジグモ
ウズグモ科：ウズグモ
ヒメグモ科：オオヒメグモ，アシプトヒメグモ，カレハヒメグモ
サラグモ科：ムネグロサラグモ
コガネグモ科：オニグモ，ギンメッキゴミグモ，ゴミグモ，ヨツデゴミグモ，
ヤマシロオニグモ
アシナガグモ科：コシロカネグモ，アシナガグモ
ヒラタグモ科：ヒラタグモ
タナグモ科：クサグモ
カニグモ科：ヤミイロカニグモ
エビグモ科：アサヒエビグモ

ハエトリグモ科：マミジロハエトリ，アオオビハエトリ，アリグモ

【兵庫県側だけで確認できた種】

エンマグモ科：ミヤグモ

ヒメグモ科：ヒザブトヒメグモ，コンピラヒメグモ，オナガグモ，ヤリグモ，
キベリミジグモ，バラギヒメグモ，ヒロハヒメグモ，シモフリヒメグ
モ，ギボシヒメグモ，ムナボシヒメグモ

サラグモ科：ナガエヤミサラグモ，ヘリジロサラグモ，ユノハマサラグモ，
チビアカサラグモ

カラカラグモ科：ヤマジグモ

ヨリメグモ科：ヨリメグモ

ユアギグモ科の一種

コガネグモ科：アオオニグモ，ヤマオニグモ(?)，ムツボシオニグモ，チュ
ウガタコガネグモ，ナガコガネグモ，ヤマトカナエグモ，サツマノミダ
マシ，ジョロウグモ，コオニグモモドキ，サガオニグモ，カラフトオニ
グモ

アシナガグモ科：タニマノドヨウグモ，オオシロカネグモ，キララシロカネ
グモ，シナノアシナガグモ，ウロコアシナガグモ，ヤサガタアシナガグ
モ

キシダグモ科：アオグロハシリグモ，イオウイロハシリグモ

コモリグモ科：ハリゲコモリグモ，クラークコモリグモ

ササグモ科：ササグモ

フクログモ科：イナフクログモ

イツツグモ科：ナガイツツグモ

シボグモ科：シボグモ

アシダカグモ科：コアシダカグモ

カニグモ科：コハナグモ，ワカバグモ

エビグモ科：シャコグモ

ハエトリグモ科：ネコハエトリ，デーニッツハエトリ，ミスジハエトリ，カ
ラスハエトリ，ムツバハエトリ，ヤサガ~~タ~~アリグモ

ワスレナグモの記録

金野 晋

最近数箇所ワスレナグモを確認し、飼育中に気のついたこととあわせてメモにしておく。

分布確認地点

- 静岡県清水市秋葉神社 1994.Apr.25. 1個体確認。
静岡県静岡市護国神社 1994.Apr.25. 1個体採集、飼育中。飼育No.1。
三重県四日市市鶴の森神社 1994.Jul.25. 多数確認。
2個体採集、飼育中。飼育No.3,4。
三重県亀山市亀山城 1994.Jul.25. 多数確認。
京都府京都市南区東寺通り北伏見稻荷御旅所 1994.Jan.2. 1個体採集。
1994.Jul.3. 2個体確認。
京都府八幡市戸津戸津八幡宮 1994.May.5. 1個体確認。
大阪府河内長野市天野町天野山金剛寺 1993.Jul.3. 1個体採集。
兵庫県神戸市北区原野八坂神社 1994.Jul.12. 1個体採集、飼育中。飼育No.2。

飼育中に気のついたこと

No.1はJun.28.より巣の入り口を閉じたままJul.13.まで15日間入り口を開けなかった。そして巣の入り口が直径5mmから8mmにおおきくなった。おそらく脱皮をしたのであろう。

No.2は採集時に脱皮直後のようなやや薄い色合いであった。脱皮殻も巣内に残っており、その背甲幅は1.0mmであった。クモ本体の背甲幅は2.0mm、体長5.0mmである。

このクモをJul.13.の0:00に飼育容器に放したところ、0:15に穴を掘りはじめた。穴の掘り方は上顎を支点に身体を回転させるように土を削り取り、削りとった土を身体の周りに筒状に糸でかがりつける。この筒は0:42に完成し身体全体を覆う様になったところで、地表面に綴じ付けるように糸疣を動かしていたが、1:00に綴じ付け作業が終了した様で動きが見えなくなった。

7:00に確認したところ飼育容器のガラス越しに深さ35mmの巣を完成させていた。巣の直径は2.0mmであった。

採集時の巣の中の食べかすはすべてアリであった。



<関西クモ研究会>

会長	西川 喜朗
編集	吉田 真
	畑守 有紀
庶務	加村 隆英
会計	山野 忠清

くものいと 第15号

発行年月日： 1994年8月10日

発行者： 関西クモ研究会 (代表 西川 喜朗)

住所： 〒567 大阪府茨木市西安威2-1-15

追手門学院大学 生物学研究室内

Tel. 0726-43-5421(内線 5113 西川研, 5106 加村研) Fax. 0726-43-5427

〒567 大阪府茨木市西安威2-1-15